

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 7 6 回相模原市廃棄物減量等推進審議会			
事務局 (担当課)		資源循環部廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)			
開催日時		平成 2 9 年 3 月 2 8 日 (火) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 5 時 3 0 分			
開催場所		産業会館 4 階 中研修室			
出席者	委員	1 6 人 (別紙のとおり)			
	その他	- 人			
	事務局	1 6 人 (資源循環部長、廃棄物政策課長他 1 4 人)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 平成 2 9 年度相模原市一般廃棄物処理実施計画 (案) について (2) 空き缶等散乱防止重点地区 (相模原駅周辺) の指定変更について (3) 一般ごみ週 2 回収集移行後の状況について (報告) (4) 麻溝台リサイクルスクエアの開館及び南部粗大ごみ受入施設の移転について (報告) 3 閉会			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 平成 2 9 年度相模原市一般廃棄物処理実施計画 (案) について、事務局から説明を行った。

平成 2 9 年度の計画量において、事業系ごみが増加しているが、桜まつりなど大型イベントのごみ量も反映されているのか。

大型イベントのごみ量も事業系ごみの計画量に反映している。

家庭ごみの分別だけでなく、イベントごみの分別についても強化していく必要があると考える。

イベント実行委員会のごみの分別に対する意識が高くなってきている。また、自治会が行っているまつりのごみについても分別の徹底が必要であると考えている。

最終処分場への埋立量は、毎年同程度の量となっているが、新たな最終処分場の建設は、建設地の近隣住民から容易に受け入れられるものではないため、最終処分量を減少させる努力が必要であると考え。このような中で、次期最終処分場整備に係る現状の取り組み状況は。

最終処分場については、第 1 期整備地の埋め立ては完了しており、現在メガソーラーを設置している。また、現在埋め立てしている第 2 期整備地については、整備した当初は、埋め立て期間を平成 4 3 年度末までと見込んでいたが、市民の協力などにより、ごみが減量化していることから、数年の延命を見込んでいる。次期最終処分場の整備については、現在庁内において、整備に係る法的な課題などについて研究しているところである。今後の整備については、相当の期間を要すると見込んでいる。

平成 2 9 年度の取組の説明の中に「検討する」としている項目がいくつかあるが、検討の結果についてはどのように公表していくのか。

検討結果については、審議会等でお知らせしていく予定である。

2 「まちかど講座の開催」については、昨年度の実施回数が少なかったと思うが、市から積極的に講座を開催してはどうか。

「まちかど講座」とは別に分別の相談等を受ける「ごみ・資源出張相談会」

を平成28年度は、これまで23回、延べ約1,380名の市民に対して開催した。主には、自治会や公民館からの依頼を受け、ごみの分別や一般ごみ週2回への移行に関する内容の講座を開催したところである。

出張相談会は、とても良い講座であると思うので、平成30年度の基本計画の目標値を達成するために、依頼を受けて開催するのではなく、市役所のロビーを活用して来庁者に啓発するなど、もっと積極的に開催していただきたい。公民館では、数多く料理教室が開催されていることから、参加者向けにごみ減量化のポスターを掲示するなどの啓発も検討いただきたい。

14「大学との連携」について、今後連携する大学を増やしたり、新たに取り組むことは検討しているのか。

平成28年度は、市内7つの大学と連携し、市条例で定めているきれいなまちづくりの日である5月30日に、大学キャンパスでポイ捨て禁止やごみの減量の啓発を行った。また、リサイクルフェアのステージショーについては、企画の段階から大学生と連携して開催した。平成29年度もリサイクルフェアを開催する予定であるが、実行委員会と相談しながら大学生と連携できるような企画を検討していきたい。

1「学校との連携」について、小学4年生を対象としている出前講座及び18「リサイクル体験教室の実施」について、それぞれ、平成29年度はどのような事業内容なのか。

分別の大切さを教えている出前講座については、新たにフードロスに関する内容を追加して開催する予定である。また、リサイクル体験教室については、今年度の夏休み期間中に、キッズスクールとして牛乳パックリサイクルや段ボールコンポストなどの講座を橋本台リサイクルスクエアで開催した。平成29年度は、4月に開館する麻溝台リサイクルスクエアにおいても開催する予定である。さらに、おもちゃの病院を実施している団体と連携して新たな講座が開催できないか検討しているところである。

平成28年度の実施計画には「使用済食用油の活用」として、「バイオディーゼル燃料推進事業」の掲載があったが平成29年度は事業を実施しないのか。

燃料電池や水素自動車が普及しつつあることや使用済食用油は、工業用インクとして売り払いをしたほうが、ごみ収集車やコミュニティバスの燃料に生成して活用するより、費用対効果が高いことから、平成28年度をもって、当該事業を終了するものである。

67「発電、蒸気供給による有効活用」について、日本ロジテック協同組合の倒産による、売電のその後の経過と現在の売電先は。

前回の審議会で、南清掃工場の電力を買い取っていた日本ロジテック協同組合が倒産し、約1億4千万円の負債となっていることを説明した。その後の経過であるが破産管財人からは、現在日本ロジテック協同組合のプラスの財産を回収していると報告を受けている。次回の債権者集会は、平成29年10月の予定であり、この問題が決着する時期については示されていない。また、平成28年度の売電先は、株式会社エネット、平成29年度からは、東京ガス株式会社と契約を締結する予定となっている。

(2) 空き缶等散乱防止重点地区(相模原駅周辺)の指定変更について、事務局から説明を行った。

(3) 一般ごみ週2回収集移行後の状況について(報告) 事務局から説明を行った。

一般ごみが減少した要因は。また市民からの苦情の内容は。

集積場所での早朝啓発や分別冊子を全戸配布したことにより、市民のごみ減量化、資源化の意識が促進されたものであると考えている。特にプラ製容器包装及び紙製容器包装の分別については、専用のチラシを作成し啓発を行った効果もあると考えている。また、苦情については、「週3回から週2回の収集となり市民サービスの低下ではないのか」や「収集回数を減らす理由が分からない」などが多かったが、一般ごみの減少率が、鈍化傾向となっており、最終処分場の延命化のためにも、さらなるごみの減量化・資源化の必要性をお伝えし、ご理解、ご協力をお願いした。

(4) 麻溝台リサイクルスクエアの開館及び南部粗大ごみ受入施設の移転について(報告) 事務局から説明を行った。

3 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
2	五十嵐 道夫	相模原商工会議所	職務代理者	出席
3	池田 珠三子	相模原市消費者団体連絡会		出席
4	内山 尚美	公募		出席
5	河本 博	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
6	菅野 泰男	相模原市子ども会育成連絡協議会		欠席
7	小清水 忠雄	相模原市農業協同組合		欠席
8	小松 秀一	相模原廃棄物対策協議会		出席
9	三田 明弘	麻布大学		欠席
10	高橋 達見	公募		出席
11	田所 昌訓	相模原市自治会連合会	会長	出席
12	中田 暁子	公募		出席
13	中田 恭子	青山学院大学		出席
14	成井 マユミ	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら		出席
15	根本 敏子	相模原商工会議所		出席
16	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		欠席
17	本田 泰章	津久井地域不法投棄防止協議会		出席
18	三須 城太郎	相模原地域連合		出席
19	山本 奈美	公募		出席
20	若林 幸子	相模原市立小中学校長会		出席